



公開授業を行いました

11月13日(水)の6・7限目に公開授業を行いました。県内外から約150名の方がお見えになり、大変活気あふれるものとなりました。特に教科横断型授業や「Classi」を利用した授業などにチャレンジをした先生方が多数いらっしゃいます。今回の通信では、授業をしてくださった先生方の感想を載せたいと思います。

教科横断型①

1-2 家庭科・国語 「高齢者の尊厳」

家庭科担当 角正康弘教諭



「高齢者の尊厳を考える」授業を軸に、意見集約のツールとして、「Classi」と「テキストマイニング」を使用した授業を行いました。ロールプレイングを通して、高齢者の行動に対しての言葉がけを考えさせました。いろいろと反省点も多いですが、新しいことにチャレンジできたので、今後の授業改善に活かしていきたいです。やること多すぎの1時間になったので、もう少し落ち着いてできるような設定にすれば良かったなど、反省です。

国語担当 辻崎千尋教諭

時間の少ない中で、角正先生と一緒に授業について話し、徐々に自分の頭の中イメージが出来上がってくる感覚が楽しかったです。生徒のスマホを使った「テキストマイニング」や「ロールプレイング」については、もっと勉強する余地がありますがこれからの新しい授業の可能性も見えてきました。まだまだ課題のある授業内容で、参観していただいた先生方からご指摘もたくさんいただきましたが、自分たちでやりたかったことは達成できたと思っています。角正先生に感謝です！

教科横断型②

2-1 物理・数学 「音源の振動」

物理担当 小原崇裕教諭



今回、数学専門である福島先生と武生式教科横断型授業に挑戦した。題材は辞書による気柱共鳴である。題材に対する生徒の興味は申し分なく、生徒は積極的に活動してくれたため、問いの設定には成功していたと思う。福島先生との掛け合いによる授業形式は非常に盛り上がった。生徒も「物理と数学の両方を今後もっと頑張っていきたい」という感想を述べるなど、効果的な授業方法であると再認識できた。今回、パフォーマンス評価にも挑戦したが、これは失敗であった。評価内容がレポートによる評価が可能なものばかりであり、無理に入れる必要はなかった。しかし、挑戦したことによって課題が見つかったという点では、やって良かったと思う。授業の中だけでなく、準備の段階で私自身も大きく成長することが出来た。この授業のために多大な協力をしていただいた福島先生に感謝を申し上げたい。

数学担当 福島健一郎教諭

身近な内容に数学を活用することを、普段の授業でも少しでも意識して取り組んでいます。数学の授業ではなかなか実験まですることができませんが、数式から得られた値から実際に音階が鳴り、自然と拍手が起きたときは、こうやって数学の世界と現実をつなげられる機会は大切だと感じました。また物理ではデータの誤差の評価も強く意識されており、数学の授業より数学っぽい、と思う場面もありました。数学と物理は、互いの専門性を上手に活かしていける題材がまだまだあると思います。小原先生、また気軽にやりましょう！

教科横断型③

2-4 化学・数学 「反応速度」

化学担当 高橋真樹子教諭



今回の公開授業で扱った内容は、発展扱いですが入試で出ることも多く、最初は「とりあえずやってみよう」という軽い気持ちでした。しかし、塚崎先生と打ち合わせを進めていくうちに、難しいことに手を出してしまったことに気づき、実は不安になっていました(笑)しかし、今回のこの経験で私自身改めて数学の重要性に気づくことができ、さらに1つのことに対して他教科の先生と話すことで、教材を深く掘り下げていくことができるという貴重な経験をさせていただきました。私の無謀な誘いに乗ってくださり、私を引っ張ってくださった塚崎先生には、感謝×100です！また、私の低レベルな数学に付き合ってくくださった福島先生、ご自身も公開授業があるのに、当日の運営などもしてくくださった辻崎先生、小原先生にも感謝申し上げます。ありがとうございました！

数学担当 塚崎覚教諭

化学とのコラボ授業は初めての経験で、しかも未習の微分方程式を扱うことで不安はありました。私の課題設定がうまくいかず、思うような展開にはならなかったのですが、生徒が難しい内容にも関わらず一生懸命取り組んでくれたことで、大変救われました。授業を通して、化学の現象を数学につなげることや、扱われる記号の扱いなどはなかなか難しいことだと感じ、理科のことを意識することも必要だと感じました。そして、難しい内容に挑戦したことで自信になったのか、公開授業の後の授業の様子は非常に良くなったと感じるので、やってよかったと思います。

指導案など、ほとんどの流れを作っていたいただいた高橋先生、ありがとうございました。最初は断ってしまって、ごめんなさい。

教科横断型④

2-6 古典・英語 「光源氏誕生」

古典担当 水嶋勝彦教諭



昨年、リベンジを期して早1年。このような機会を設けてくださった先生方に感謝します。

ありがとうございました。橋本先生との掛け合いには自信がりましたが、少し緊張したためか全開ではできませんでした。反省点はありますが、授業としては満足できるものだったと思います。今まで漠然と考えていた漢文と英語の関係性について橋本先生との教材研究によってクリアになりました。思い描いていた仮説と現実にかんがりのくい違いがあることに気がつき、それだけでも収穫でした。今回の授業で長年の夢が叶いました。先生方、真剣に取り組んでくれた生徒たち、ほんとうにありがとうございました。

英語担当 橋本洋平教諭

漢文と英語とのコラボですが、最初はどこを着地点にしようか悩みましたが、生徒の感想の中で、「漢文を英語に毎回直すことに意味はないと思うが、漢文を英語的に考えるという思考の手札が増えたことは今後役に立つと思う」というものがありました。反省はたくさんありますが、自分が1時間で伝えたかったことを感じ取ってくれた生徒もいたことに大変救われました。

ただ何よりも、水嶋先生との掛け合いに全神経を集中して挑みました。水嶋先生、来年もやりましょう。

国語

2-5 古典B 「桐壺」 林昭彦教諭

予習を敢えてせずに、初読で「源氏物語」の冒頭部分の主題に迫る学習を行った。2学期に入って、予習を前提にしてではあるが、最初の授業で、読みの根拠を押さえながら全体の流れを読み取り、主題に迫ることに特に力を入れてきた。

「源氏物語」の冒頭部分は、古文として読解の難易度が低い部分ではない。そこで、今回は全くの初読で臨むことを考慮して、「桐壺の更衣の置かれた立場を読み取る」というガイドラインを与えて活動した。すると、予想以上に生徒がしっかりと読み取っていき、感心させられた。文のつながりから主語や目的語を明確することは比較的よくできていたが、敬語から主語を明確にする視点の定着には課題があることが分かり、収穫であった。

2-9 現代文B 「南の貧困／北の貧困」 田中寛人教諭

「南の貧困／北の貧困」を用いてどのように読解していくかを文中のキーワード「二重の除外」を用いて取り組みました。グループの形をとることで、グループ内で考える、教えあうということを意識させることで、定着の向上を図るようにしました。生徒が授業者の方を見ない方が実は取り組みにとってよいのではないかと思います。生徒がグループを組むことで、教員は必然的にファシリテーターの位置になるのではないのでしょうか。私自身としては説明しすぎの授業になってしまった部分があり説明を減らしていく工夫をしたいと考えています。



地歴公民

1-3 現代社会「部活動活動時間の制限を考える」相道孝志教諭

スポーツ庁が作成した部活動の活動時間についてのガイドラインについて、その是非を基本的な人権との関係から考えて、討論する授業を行いました。このクラスでの討論は3回目でしたが、どの班も生徒が積極的意見述べ、活発な討論になっていました。参観の先生方からもすばらしい討論だとお褒めの言葉をいただきました。私自身の反省としては、法と基本的人権との関係をもう少し深く考えさせたかったということがあります。今回の反省を次の討論に活かしていきたいと思います。



2-8 世界史B「封建社会の成立」 室井浩貴

今回はチャレンジするポイントを絞って、それ以外は普通の授業を行いました。チャレンジポイントは2つ。イメージがしにくい封建社会を具体的な史料を用いて理解すること、そして、ICTを使用して図像や関係図を示し、中世ヨーロッパの社会をイメージしやすくすることでした。(慣れないせいか)ICT機器の前で挙動不審な動きをしてしまいました。温かな雰囲気での授業を行うことができました。2年8組の生徒・参加者の方々に改めて感謝申し上げます。

英語

2-9 英語表現II “Japan’s Population Decrease” 山崎泰代教諭

少子高齢化の現状、課題、解決策を英語で表現する授業を行った。現状については教科書の表現を覚えてグラフを説明。課題については身近な問題と日本全体の問題と着眼点を分けて生徒に考えさせた。最後にこれらの問題点は労働人口減少に起因するものが多いので、その問題を解決するためにはどうすればよいかを各自で考えて、発表させた。課題や解決策について、「どうして?」「誰に対して?」「どんなふうによ?」などその内容を深めるための問をしたことで、聞いている相手にとっても理解しやすい内容となっていた。少子高齢化の問題について新聞などで生徒が積極的に知識を得ていたので、内容も深まり意義深い授業となった。授業を前もって一緒に考えてくださった、松田先生、橋本先生、本当にありがとうございました。



数学

1-3 数学A 「整数の性質」 野村幸史教諭

ジグソー法を用いてアクティブなラーニングを促す授業を行った。1学期から「なぜ?」と問うことを心掛け、理由をペアで説明させる授業を行ってきた。グループ学習を節末や章末、課外で取り入れて、特にジグソー法についての活動を取り入れつつ公開授業まで仕込んでいった。ジグソー法の難しい所は、課題設定と生徒に発表をさせる所だと思ふ。課題設定は難しすぎないことを意識すれば大丈夫。しかし、生徒発表については、こちらの意図通りに思考しておらず、全班がわからない状況で誰も発表できないピンチもある。今回もピンチはあったが、ヒントを与えたり、出題意図を示すことで回避した。公開授業の場合は、臨機応変に対応する必要があるためヒヤヒヤものだ。生徒の実力を読み切れていないいつも痛感する。



1-4 数学A 「整数の性質」 今川大輔教諭

数学Aの整数の分野から、身近に活用されている題材を選んでみました。理論的にかなり難しい部分があり、生徒に伝わるかどうか不安でしたが、生活に密着したものが題材であったからか、生徒の興味関心が高く、なんとか授業を終えることができました。公開授業をするにあたり、整数に関する「身近な題材を色々探してみたのですが、「身近」になればなるほど数学的な内容が難しくなり、題材選びと教材研究が難しいと感じました。しかし、やる価値は十分にあると思うので、学期に1回くらいはこのような探求的な題材の授業ができればいいなと思っています。(やれるかどうかは別ですが…)

理科

2-1 理数生物 「呼吸と発酵」 酒井哲弥教諭

パンを膨らませるときに使う酵母菌は、糖を分解してエネルギーを取り出す発酵を行っています。この発酵に関して、「糖がたくさんあるほど発酵が活発に行われる」という仮説を立て、検証する探究活動を行いました。日頃、授業では静かな学級ですが、この日は挙手して発言する生徒が何名かいて、導入部は計画通りでした。しかし、実験操作に予想以上の時間がかかり、結果を学級全体で共有し、グラフ化したところで授業が終わってしまいました。結果を各グループで分析し、考察を行う「本時の深い学び」の部分がほとんど実施できなかったため、授業者としては不完全燃焼に終わってしまったと反省しています。次回の公開授業に向けた課題とします。

2-2 化学「反応速度と濃度・温度との関係」 谷口溪教諭

今年度は生徒たち自身にプログラミングしてもらったマイコンとセンサーを用いて実験データを得るという方法をとりました。異分野融合を実際に体験してもらい、視野の広さを身に着けさせるのがメインの目標でしたが、やるが多すぎて内容がぼけてしまいました。

2-8 地学 「防災」 奥村貢教諭

今回の内容は、前半は昨年度の夏季課外で実施したものであった。昨年度は公開したが、誰も見に来てもらえず、「後悔」したが、今回は予想以上に参加された先生がおり、驚いた。前半のハザードマップを使用した内容では、代表生徒にスクリーン上で避難経路を記入させ、それに対する意見を話し合わせるようにしても良かったのではないかとこの助言があった。確かに、意見交換の場が無かったように思う。後半の災害の写真については、予想以上に的確な読み取りができていたように思う。中には、写真にある地名から県名を調べ、災害の種類を答えていたグループもあった。問題点の指摘も予想以上であった。

最近、日本では災害が多いように思う。災害に関する教育を今後も取り入れていかねばならないだろう。評価については、実際に被災したときに的確な行動ができるかどうかで決まるのではないかと。



【ふたりごと】

- ・今年3年よりも多くの方が足を運んでくださり、身が引き締まる思いでした。
- ・様々な角度から物事を捉える力が教員側にも必要なのだと感じました。

(11月担当 河寄・室井)